

---

# 岐阜県立岐阜総合学園高等学校

学 校 長 高橋 幸平

学校住所 岐阜市須賀 2-7-25 電話 058-271-5548

---

1 会議の名称 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委 員 (五十音順)  
奥村 正彦 様 (須賀西地区自治会長)  
佐藤 公治 様 (メットライフ生命コンサルタント部長)  
佐藤 昇子 様 (同窓会副会長)  
松野ゆかり 様 (平成医療短期大学講師)  
森本 浩一 様 (川崎重工株式会社)

学 校 側

高橋 幸平 (校長)  
牧野 雅則 (事務部長)  
岩崎 有子 (教頭)  
有賀 昭人 (教頭)  
岡田 心一 (教務主任)  
渡邊 誠 (生徒指導部長)  
片桐 一色 (進路指導部長)

3 会議の目的 学校運営について、地域の人々から幅広く意見を求め、地域に開かれた、活力ある学校づくりを推進することを目的とする。

4 会議の開催 平成28年7月14日(木) 15:30~17:30 岐阜総合学園高等学校 中学習室  
委員5人と学校側7人が出席

5 会議の概要

- (1) 学校評議員委嘱
- (2) 自己紹介
- (3) 校長あいさつ
- (4) 生徒との懇談
  - ・学校行事の紹介
  - ・生徒との懇談
- (5) 学校概要説明
  - ・教務
  - ・生徒指導
  - ・進路指導
- (6) 全体会議
  - ①総合学園生に求める力
  - ②総合学園に期待すること
  - ③魅力ある総合学科のために必要なこと 等
- (7) お礼の言葉
- (8) 閉会后、ゆうやけコンサート自由見学

6 会議の内容・提言等

[校長あいさつ]

本校は、平成9年に岐阜西工業高校と岐阜第一女子高校の統合によって、岐阜県で初めての総合学科として創立され、今年で二十年目の節目を迎えます。総合学科の中心校として発展し、生徒は自分の夢が実現するよう、幅広い選択科目の中から自分の意思で科目を選択することができます。今後も「総合学科のシステム」を最大限に活用し、魅力ある総合学園にするためにご意見を頂きたいと考えています。

[生徒会生徒より]

(1) 発表

- ①学校行事の紹介 (学校行事の紹介と説明)
- ②系列について (所属している系列の説明)
- ③進路について (ライフプランの説明)
- ④各活動について (部活動、生徒会活動等の説明)

(2) 懇談

委員A：総合学園の生徒は他校の生徒と比べてもマナーがいいと感じています。

委員B：校内に入ると生徒達が、言葉だけでなく心から挨拶してくれる様子に感心しています。

生徒：1年生は部活動に全員加入するので、そこで挨拶について教えてもらいますが、普段の生活でも、2、3年生が挨拶をしている姿を見て自然にできるようになりました。

生徒：生徒会として、これからも生徒に呼び掛けていきたいと思います。

委員C：生徒が自分の将来について、明確な目標を持っていることに驚きました。自分は高校生のときにここまで自分の将来について語ることはできませんでした。学校ではどのような指導がありましたか。

生徒：1年生の科目で「産業社会と人間」がありますが、そこで自分のライフプランをたてることでしっかりと考えることができます。それからインターンシップを経験したことも参考になりました。

委員D：高校に入ってから、自分の進路目標を変更したということはありませんか。

生徒：私は自分の趣味を仕事にできたらと考えていましたが、部活動で発表や企画をすることをたくさん経験し、そういったことが学べる大学に進学しようと思うようになりました。

委員D：10年後、20年後を考えたとき、なくなる仕事もあるかもしれません。将来、どう環境が変わるか分かりませんが、それに対応できるようにしっかりと基礎学力をつけ、部活動で体を鍛えることが大切だと思います。応援しています。

委員E：今私は学校で学んだこととは違う仕事に就いていますが、それでも学校で学んだことが役に立っています。どんな仕事に就いても基礎学力は大事です。

生徒：自分も将来の目標はありますが、将来は色々な立場を経験することがあると思うので、この学校でしっかり学んで、対応できる力を付けたいと思います。

[全体会議]

委員A：この地域で地震があれば、岐阜総合学園高校は避難場所になっています。そうしたとき高校生であれば助ける立場になるのではないのでしょうか。18才で選挙権が与えられるようになりましたが、社会のために何ができるか、大人と一緒に助ける立場になっていただけると、地域に住む者にとってありがたいです。

委員B：総合学園から入学してくる生徒は、大学に入学してもよく伸びているように感じます。系列で専門の勉強も大切ですが、ベースになる基礎学力も大切にして欲しいし、家庭での勉強時間が短いということですが、勉強の大切さを教えることが必要だと思います。

委員C：動機付けが強い人は目標に向かって一生懸命になれます。子供達の夢を吸い上げ、それを実現するための援助がしっかりできる学校になって欲しい。

委員D：私の会社では規律が厳しい。学校や家庭のゆるさのまま入社してくると耐えられない。遅刻数が年々減っているのはいいことだと思う。

厳しさも教える必要がある。会社の中には夢ばかりではない。

職員：卒業生のアンケートから、大卒就職と高卒就職と比べると、若干高卒就職した者の方に不満傾向が見られます。理由は自分のやりたい仕事に就きづらいところにあるようです。それでも7割の卒業生が満足感を持って働いています。また、ほとんどの生徒が企業名で選ぶことなく、自分のライフプランに沿った進路を選んでいきます。3年後の離職率は1割程度です。上級学校卒業生では1割未満です。

委員D：私の会社でも3年勤めた人で退職する人はいないので、3年が一つの目処ではないか。

職員：環境が変わっても最善の選択ができることが大切だと考えています。その力をつけることを本校のキャリア教育で育てようとしています。

委員D：私の会社でも卒業生が非常に高度な資格にも挑戦し合格しています。これからも素晴らしい生徒を育てて欲しいと思います。よろしくお願いします。

[お礼の言葉 (事務部長)]

本日はお忙しいところお集まり頂き、また多くの貴重なご意見をありがとうございました。伺った意見を参考に、本校の発展と生徒のために頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いします。